

(ファクトシート)

## 福島県における I A E A 協力プロジェクト

### 1. 放射線モニタリング及び除染

#### (1) 福島における除染

- － 技術的アドバイスのため I A E A 及び国際的な専門家から構成される I A E A ミッションを派遣する。
- － 地元におけるワークショップの開催を通じた、環境モニタリング、被ばく経路調査、被ばくを低減させ又は回避する可能性、日常生活のための放射線安全、住民の帰還等に関する支援を行う。

#### (2) 除染活動から生じた放射性廃棄物の管理

- － 技術的アドバイスのため I A E A 及び国際的な専門家から構成される I A E A ミッションを派遣する。
- － 地元及び政府の関係機関との意見交換を通じた、放射性廃棄物の保管、放射性廃棄物の処理、放射性廃棄物を取り扱う際の放射線被ばく等に関する支援を行う。

#### (3) 無人航空機 (U A V) による環境マッピング技術の活用

- － 福島におけるモニタリングに使用するため、U A V に搭載した可動型ガンマ線分光システムのプロトタイプを開発する。
- － 専門家会合を開催しフィールドテストを実施する。研修及び技術的支援を実施する。

#### (4) 分かりやすいマップ作成のための放射線モニタリング・データ活用上の支援

- － 放射線モニタリング・データ活用上の技術的アドバイスのため、I A E A 及び国際的な専門家から構成される I A E A ミッションを派遣する。

#### (5) 放射線安全及びモニタリング・プロジェクトの管理支援

- － 福島と I A E A との協力プロジェクトを調整するため、福島における I A E A の連絡役として、I A E A 専門家を任命し、必要に応じて技術的アドバイスを提供する。

## 2. 人の健康

- (1) 医療関連専門家及び医学生能力開発による放射線医学教育の強化
  - － 2013年末に福島県立医科大学において関連する国際シンポジウム及びその他の技術会合を開催する。
- (2) 心的外傷後ストレス障害を含む放射線災害医療における研究協力の強化
  - － 医療関連専門家ワーキング・グループを設置する。
  - － 原子力事故後の放射線、健康及び社会リスクに関する国際データベースを構築する。
- (3) 原子力又は放射線緊急事態の際に支援を行う医学物理士のための具体的なトレーニング・パッケージの作成
  - － 医学物理士のための具体的なトレーニング・パッケージを準備し、eラーニング教材を作成し配布する。
  - － トレーニング・パッケージ作成のための会合及びワークショップを開催する。

## 3. RANET（緊急時対応ネットワーク）

- (1) 能力研修センター（CBC）
  - － 地元、国内及び国際的な参加者に対し、緊急事態の準備及び対応（EPR）の分野における訓練活動を行うため、福島において「IAEA緊急時対応能力研修センター」を指定する。現時点で、少なくとも、地元又は国内の参加者のための年1回のコース及び国際的な参加者のための年2回のコースを5年間実施することが想定されている。
  - － 放射線モニタリング機材を保管し、同機材を研修活動に活用し、また、アジア太平洋地域において、原子力緊急事態を避けるためのあらゆる努力にもかかわらず同事態が発生した場合にIAEAが同機材を展開する。
- (2) RANETワークショップ
  - － 2013年に福島でRANET国際ワークショップを開催する。

（以上）